



# 心臓財団 季報

No.177

Tel 03-3201-0810

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル835区・A  
Fax 03-3213-3920 e-mail:info@jhf.or.jp http://www.jhf.or.jp/

財団法人 日本心臓財団

November 10, 2004

## 平成16年度日本心臓財団研究奨励決定

本年度の研究奨励事業は、第30回日本心臓財団研究奨励と第2回日本心臓財団若年研究者研究奨励(藤基金)に全国から72名の応募があり、高野照夫日本医科大学教授を委員長とする選考委員会が10月4日に開かれ、下記に掲載の12名が選考されました。

第30回日本心臓財団研究奨励は40歳未満の少壮研究者を、第2回日本心臓財団若年研究者研究奨励(藤基金)は30歳未満の将来性のある若手研究者を対象に心臓血管病の成因、治療、予防等循環器の研究領域広範囲から募集するものです。

奨励金はそれぞれ100万円で、贈呈式は来る12月6日に東京・銀行倶楽部において行われます。

選考委員長	高野 照夫	日本医科大学内科学第1教授
選考委員	磯部 光章	東京医科歯科大学歯学総合研究科循環制御学教授
(五十音順 敬称略)	井上 博	富山医科薬科大学医学部内科学第2教授
	今泉 勉	久留米大学医学部内科学第3教授
	上田 一雄	九州大学医療技術短期大学部名誉教授
	木村 彰方	東京医科歯科大学難治疾患研究所分子病態教授
	下村伊一郎	大阪大学大学院医学系研究科病理病態学教授
	田林 眺一	東北大学大学院医学系研究科心臓血管外科学教授
	土居 義典	高知医科大学老年病・循環器・神経内科学教授
	堀内 正嗣	愛媛大学医学部医化学・心血管生物学教授

### 第30回日本心臓財団研究奨励 対象研究者

(五十音順・敬称略・奨励金額はそれぞれ100万円)

番号	氏名	所属	研究課題
1	朝野 仁裕 (33歳)	大阪大学大学院医学系研究科 病態情報内科学 研究生	遺伝性心筋症におけるクロマチン構造関連蛋白質LAMR1を介した新規病態機序の解明
2	王 英正 (37歳)	京都大学医学部附属病院 探索医療センター 助教授	ヒト心筋及び骨格筋から心筋再生医療に用いる心筋幹細胞株の樹立
3	勝谷 友宏 (39歳)	大阪大学大学院医学系研究科 加齢医科学 講師	遺伝疫学から解析する高血圧におけるインスリン抵抗性の意義 - 端野・壮警研究 -
4	北村健一郎 (38歳)	熊本大学大学院医学薬学研究部 腎臓内科学 助手	プロスタジンによる食塩感受性高血圧症発症機序の解明および診断・治療への応用
5	清水 良子 (30歳)	慶應義塾大学医学部 内科・救急部 助手	心臓血管病の発症・進展における新規プロテオグリカンpodocanの役割
6	新藤 隆行 (38歳)	東京大学大学院医学系研究科 循環器内科学 助手	虚血・腫瘍・発生におけるアドレノメデュリンの血管新生作用
7	長田 太助 (38歳)	独立行政法人国立病院機構京都医療センター 臨床研究センター内分泌研究部生体統御研究室 室長	アルドステロンによる血管内皮細胞障害作用の研究 - 遺伝子改変マウスによる検討 -
8	中邨 智之 (39歳)	京都大学大学院医学研究科 先端領域融合医学研究機構 助教授	動脈弾性板の形成におけるDANCEとLTBP2の役割の解明
9	西谷 友重 (37歳)	国立循環器病センター研究所 循環分子生理部 室長	Ca <sup>2+</sup> 結合タンパク質NCS-1の新規機能としての心筋保護効果とその作用機構の解明
10	山田 賢裕 (35歳)	金沢大学がん研究所 細胞分化研究分野 学振特別研究員	胎生期及び成体期における血管幹細胞の単離及びその虚血性疾患への応用

### 第2回日本心臓財団若年研究者研究奨励(藤基金) 対象研究者

(五十音順・敬称略・奨励金額はそれぞれ100万円)

番号	氏名	所属	研究課題
1	小林 優子 (29歳)	国立循環器病センター研究所 循環分子生理部 流動研究員	心筋細胞に発現する伸展刺激感受性チャネルの分子実体の解明
2	内藤 篤彦 (26歳)	千葉大学大学院医学研究院 循環病態医科学 医員	効率的な心筋細胞への分化誘導法の開発 - Wntシグナルによる心筋細胞分化誘導 -

## 第2回「動脈硬化 Update」 研究助成対象者決定

当財団では、動脈硬化研究の一層の進展と少壮研究者の育成に努めるうえで、動脈硬化領域における研究を行う40歳未満の研究者に対して第2回「動脈硬化 Update」研究助成を実施しました。

本研究助成に58題の応募があり、大内耐義東京大学教授を委員長とする選考委員6名による書類審査により3題が選考されました。9月4日に開催の研究発表会で選考された3名による発表をもとに最優秀賞1題と優秀賞2題が次のとおり決定しました。このほかに奨励賞3題が選ばれました。

選考委員長	大内 耐義	東京大学大学院医学系研究科加齢医学教授
選考委員	上田真喜子	大阪市立大学大学院医学研究科病理病態学教授
(五十音順)	及川 真一	日本医科大学第三内科学教授
(敬称略)	酒井 寿郎	東京大学先端科学技術研究センター教授
	堀内 久徳	京都大学大学院医学研究科循環病態学助手
	山田 信博	筑波大学臨床医学系代謝内分泌学教授

### 研究助成対象者

(順不同、敬称略、金額単位：万円)

1	<b>磯 達也</b> (38歳) 群馬大学大学院医学系研究科 臓器病態内科学 研究課題 動脈硬化形成におけるNotch-HERP経路の役割	200
2	<b>曾根 博仁</b> (39歳) 筑波大学大学院人間総合科学研究科 代謝内分泌内科 研究課題 日本人2型糖尿病における 動脈硬化合併症の解析と国際比較	100
3	<b>前田 法一</b> (34歳) 大阪大学大学院医学系研究科 分子制御内科学 研究課題 抗動脈硬化・抗糖尿病作用を有するアディポネクチンの 高血圧および組織線維化に対する機能解析	100

### 第9回日本心電学会学術奨励賞 決まる

第21回日本心電学会学術集会在9月13日・14日の両日、国立京都国際会館で大江透岡山大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学教授を会長に開催され、14日の総会において当財団が後援している第9回日本心電学会学術奨励賞の授賞式が行われました。

これは日本心電学会の会員で、心電学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、将来発展の期待される40歳未満の研究者に贈られるものです。

今回は張麗艶(名古屋大学環境医学研究所循環器分

野)が最優秀賞に、木村正臣(弘前大学医学部第二内科)、神鳥明彦(日立製作所中央研究所ライフサイエンス研究センター)、山田さつき(筑波大学臨床医学系内科)が優秀賞に選ばれました。

## 募集のお知らせ

### 第18回日本心臓財団 バイエル薬品海外留学助成

1. 助成対象  
心臓病・脳卒中・高血圧・動脈硬化症等の循環器領域の研究に携わる研究者
2. 助成金額  
1件300万円とし原則として10件
3. 応募資格  
次の事項のすべてに適合する者  
1) 初めての海外留学であること  
2) 35歳未満(1970年4月1日以降生まれ)で日本国籍を有すること  
3) 1年以上留学すること  
4) 留学先研究機関の責任者または受入者の承諾を得ていること  
5) 一定の研究業績を有すること  
6) 2005年4月1日～2006年3月31日の間に出発の予定であること
4. 応募締切日  
2004年11月30日

### 第10回日本心臓財団 ファイザー心血管病研究助成

1. 研究テーマ  
急性冠症候群の発生機序  
- 臨床・病理・分子生物学的アプローチ -
2. 助成金額  
優秀課題12件に各50万円、さらに12件の中から翌年選考される最優秀課題4件に各200万円
3. 応募資格  
1) 対象：原則として個人研究  
2) 年齢：応募時年齢が40歳未満(1964年4月1日以降に生まれた者)  
3) 施設：原則として臨床系教室及び病院  
4) ただし、次の事項に該当する者は応募できない  
前年度の助成対象者の連続応募  
同一研究テーマでかつ同年度に他の助成を受けた者  
5) 応募は日本在住者に限る(ただし日本在住外国人も可)
4. 応募締切日  
2004年12月8日  
詳しくは、<http://www.jhf.or.jp/>をご覧ください。

問い合わせ先  
財団法人日本心臓財団事務局まで  
電話(03)3201-0810 FAX(03)3213-3920  
E-mail info@jhf.or.jp

## 2005年1月、「心臓」が大きく変わります

1969年に創刊され、1984年からは日本心臓財団責任編集となった「心臓」は、多くの熱意ある先生方に支えられ、学術的にも高い評価を得てきました。また、日本循環器学会誌が英文誌となってからは、邦文専門誌として準学会誌的な役割も担ってまいりました。しかしながら、昨今の投稿論文の減少により、創刊の精神である「アゴラの広場」(前川孫二郎先生)としての活発な討論が少なくなってきました。そこで、今までの伝統を引き継ぎながら、新しい風を吹き込むべく、2005年より編集委員および誌面を一新し、新しい「心臓」を読者の皆様にお届けいたします。循環器領域の最新の話題と皆様から投稿された熱のこもった投稿を掲載してまいります。ご購入のほどよろしくお願いたします。

1月発行号の主な内容(予定)

HEART's Selection

AED元年

心臓突然死は回避できるのか

企画：三田村秀雄

HEART's Original

オリジナル投稿論文掲載

Forum

HANP Forum 2004



多くの諸先輩方のご尽力に支えられ、今日まで歩んできた「心臓」を、さらに多くの若き読者に手にとっていただくため、編集委員会を一新して新しい試みを提案してゆくことにいたしました。

ひとつは「HEART's Selection」と題する巻頭特集です。毎号興味あるテーマを基礎、診断、治療といった角度から、専門医にわかりやすく解説していただきます。

また、本誌は投稿論文掲載が主体です。皆様から寄せられた投稿をより迅速に掲載するため、電子メールによる投稿の受付や査読システムを導入し、より投稿しやすい環境整備を行ってゆきます。

そのほか、循環器医療の礎を築いた先輩医師を現編

集委員が訪ねる対談コーナー、新薬を治験結果とともに紹介するコーナーや大規模臨床試験の速報など、さまざまな企画を考えております。

これらの時代のニーズに合わせた変革を行いつつ、36年続いた伝統を継承して、日本心臓財団発行「心臓」が多くの循環器医師のお役にたてるよう努力してまいります。皆様も奮ってご投稿くださるようお願い申し上げます。

「心臓」編集委員会 委員長  
山口 徹

### 「心臓」編集委員会

編集委員長

山口 徹 (虎の門病院院長)

編集委員

磯部 光章 (東京医科歯科大学循環制御内科学教授)

加藤 貴雄 (日本医科大学第1内科教授)

佐地 勉 (東邦大学医学部第1小児科教授)

代田 浩之 (順天堂大学医学部循環器内科教授)

山科 章 (東京医科大学第2内科教授)

四津 良平 (慶應義塾大学医学部外科学教授)

編集委員のほかに全国の若手医師を中心に各分野から Editorial Boardとして査読や企画に随時参加していただきます。また日本循環器学会の協力を得て各支部より数名を Advisory Boardとして推薦いただき、良質な演題を推薦していただきます。

本誌の内容・投稿に関する問い合わせ

株式会社 協和企画 編集・制作本部 「心臓」編集部

TEL: 03-3575-0181 E-mail: shinzo@kk-kyowa.co.jp

本誌の広告に関する問い合わせ

株式会社 丹水社 TEL: 03-3561-1323

有限会社 春光社 TEL: 06-6941-2475

本誌の購読に関する問い合わせ

丸善株式会社 出版事業部 TEL: 03-3272-0521

編集：日本心臓財団「心臓」編集委員会

発行：財団法人日本心臓財団

制作：株式会社協和企画

販売：丸善株式会社



健康していますか？あなたのハート

## 8月10日ハートの日・健康フェア

日本心臓財団では、一般の方に心臓病に関する正しい知識を身につけていただくことも事業の一つとして取り組んでおります。8月10日が<sup>ハート</sup>810と読み取れることから1985年に『8月10日は健康ハートの日』と決めました。これまでの病気という後ろ向きなイメージから“健康ハート”と命名することにより、明るく陽的なイメージでこの8月10日を中心に新しい国民運動を展開しようとしたものです。

今年は、8月8日、日本の交通の要であり、各地から多くの人が集まる東京駅の八重洲地下街において、血圧、動脈硬化度、体脂肪等の測定と、医師による健康、医療相談が行われました。約300名の方が訪れました。同様の催しが豊橋、鹿児島においても開催されました。



日 時：平成16年8月8日(日)午前10時～午後4時  
会 場：東京駅八重洲地下街 センタースポット  
内 容：体験コーナー

血圧測定・血管推定年齢測定・動脈硬化度測定・体脂肪測定

健康相談コーナー

データをもとに医師に健康についての不安や悩みの相談

アドバイザー：杉本 恒明（関東中央病院名誉院長）

細田 瑠一（榊原記念病院院長）

上松瀬勝男（日本大学総合科学研究所教授）

羽田 勝征（榊原記念クリニック）

後藤 淳郎（日赤医療センター腎臓内科部長）

山田 薫（三楽病院健康管理科部長）

大村外志隆（埼玉県人間福祉保健総合センター所長）

主 催：財団法人 日本心臓財団

特別協力：フクダ電子株式会社

協 力：オムロンヘルスケア株式会社  
株式会社タニタ



## 第5回 エコー・ウォーカソン 2004 イン ジャパン

今年で5回目(延べ8会場)を迎えたエコー・ウォーカソンは、これまで一度も雨にあったことはありません。台風の多い今年でしたが、その台風にあうこともなく、恵まれていました。参加費1人1,500円のうち1km歩くごとに100円、10km完歩すると1,000円がチャリティとして寄付されるこのエコー・ウォーカソンは、今回は京都と横浜で行われました。

9月25日(土)の京都・嵐山は、前日と翌日はときどき



雨という天候でしたが、当日はまったく雨に見舞われず、快晴で9月というのに夏のような暑さのなかのウォーキングでした。嵯峨野田園地帯ではさわやかな風が癒してくれ、救われる思いがしました。

京都大会は958名が、10月24日(日)の横浜大会は4,074名が完歩し、寄付をいただける当財団とユニセフ協会を代表して京都は当財団の篠山重威常任理事に、横浜は杉本恒明副会長にそれぞれチャリティ金の目録が手渡されました。

今回も救護班として、京都予防医学センターと横浜市スポーツ医科学センターの医師と看護師の方にご協力いただきました。

なお、横浜大会での寄付金の一部が、10月23日に発生した新潟県中越地震の被災地に対する義援金として寄付されることになりました。

エコ・ウォーカーソン参加者から

## 友人とのエコ・ウォーカーソン

昨年も横浜大会に参加した。前は私が誘ったのだが、今回は7月に友人から声がかかった。以前から横浜の中華街で仲間と食事会をしていたが、エコ・ウォーカーソンの参加と中華、これが恒例になろうとしている。

もう36年も付き合っている4人組ですが、全員の体調を訴えている状態で、仕事の関係で悩んでいるもの、糖尿病のもの、高血圧のもの、といろいろである。歩くのが体に良いことはわかっているのであるが、普段はなかなか難しい。そこでウォーカーソンという具合なのです。

さて、一人が仕事の都合で参加できなくなり、3人で参加させていただいた。新しく地下鉄の「みなとみらい駅」から会場に向かう。それにしても、きれいな駅と建物。思わずカメラのシャッターを押してしまった。

会場に向かいながら前日の新潟中越地方の地震で被災した仲間に電話をかけた。数度のトライでつながった。心配していたとおり、工場の配管や設備に被害があったそうである。この時点ではあれほどの被害であったとは想像もつかなかった。被災者の方にお悔やみを申し上げたい。

さて、我々3人は元気に出発した。老若男女が数百メートルにわたって横浜の海岸を歩いてゆく。周りの人はこれは何だという怪訝な顔つきをしている。海から来る心地よい風に吹かれながら、元気に、歩きに歩いた。信号が赤になる寸前にわたってしまおうと走ってもいた。何しろまず第一の、いや、第二の目的の中華街目指して。「お昼になっちゃうと混むんじゃないの?」「今日は日曜だからな」こんな具合である。信号で待っている人の前に出たり、私が風景を撮影している間に友人たちはサッサと歩いて行ってしまふ。カメラを構えてシャッターを押す間に数十メートル置いて行かれた。人間の歩くスピードって結構あるんだな、そう思いながら追いつくために必死で歩いた。初めの30分くらいでちょっと汗をかいてしまった。これって「すごく運動している?」と自分に言

い聞かせた。

中華街の中でも結構有名な店だと思うが、そばと点心3品、それとビールで舌鼓を打った。去年は食べ過ぎて失敗したので、腹八分で止めておいた。後で思ったことであるが、豚まんなどを買って公園でお昼にするのも良いかもしれません。自然の中で食べるのは爽快だろうし、来年も参加できたらそうしようと話し合った。肉まん又は豚まんは一つ400円くらいのももある。一つでは足りない?二つでは多すぎ?そんなことを考えながら元町の商店街にさしかかった。昨年に引き続き参加している人は絶対こう思ったに違いない。「ここから坂ばかりできついんだよな」

ここまでくると、やはり次第にスピードは落ちてくる。途中外人墓地、バラ園、港の見える丘公園、山下公園と通過した。写真を撮ったからいいようなものの、ほとんど何も景色を見ていないことに気づく。そういえば結構団体のような感じでみなさん一緒だったと思ったが、ここまでくると流石にばらけている。

そうこうしているうちに、ゴールが近づいてきた。オレンジの団体が「お帰りなさい」と拍手で迎えてくれました。一度ゴールしてから、もう一度戻ってその様子を撮りました。みなさん明るい笑顔で迎えてくれました。本当にありがとうございました。

さらに、元気にさせてくれるものが待っていました。そうです、「ワイルドワンズ」のみなさんです。青春時代を思い出させてくれました。思い出の渚はジーンとききました。主催者の方がおっしゃっていたウォーカーソン三つの目的「健康になる」「人間関係をよくする」「寄付もできる」が達成された一瞬でした。日本心臓財団・日本ユニセフ協会だけでなく新潟の地震災害に義援金として贈られると発表があり、改めて別の友人のことを思い浮かべながら家路につくことができました。

このような素晴らしい大会を企画・運営された方々に対し、感謝と御礼を申し上げます。

(2004年10月 参加者 東京都在住 TS)





10月20日「心臓病患者家族へのAED・心肺蘇生法全体講習会」に参加して

あいにくの台風接近が危ぶまれる悪天候。心臓病患者の家族の方は集まれるのかしらと心配しつつ、日本武道館アリーナ会場はほとんど埋め尽くされるくらいの熱気だ。

東京都CCU連絡協議会参加施設54病院からの希望者が、病院ごとにグループ分けされ、さらに手際よく、少数参加者が割り振られる。

東京都CCU連絡協議会会長、日本医科大学附属病院院長の高野照夫先生より「愛する家族を救うのはあなただ!」のわかりやすい講義を受ける。

愛する隣人が意識を失った時、一般市民が唯一命を助けられるのが心肺蘇生であり、AEDを使った除細動であり、それは一分一秒を争う速さで救命率が変わると説明された。

いよいよ実際に自分の手を動かしての講習会に入る。この天気の中、全国からたくさんのボランティアのインストラクターさんが駆けつけて下さったのことに感動する。



心肺蘇生は、経験のない者には難しい。

それを、A 気道の確保、B 呼吸の確認、C 循環サインの確認、AEDと分けて指導してください。

実は私は、心肺蘇生が3回目、AEDが2回目の講習だ。

回数を重ねるごとに、よりスムーズに深く理解していく自分を感じているが、何回経験しても、いざ行動しようとする時と頭が一瞬真っ白になってしまう自分を知っている。

めったに出会わない救命であるが、いざという時のために、できれば、毎年のように繰り返し訓練をする機会を望んでいる。(事務局 H・M)

ご支援ありがとうございます

当財団へのご寄付

次の方からご寄付を頂戴しました。ここにご芳名を記して感謝の意を表します。(2004年8月~11月)

株式会社リコー様	東京都港区	200,000円
三浦二美男様	茨城県日立市	30,000円
平井 俊彦様	茨城県水戸市	10,000円
石川 暢様	茨城県久慈郡	10,000円
佐川 清様	茨城県常陸太田市	10,000円
森本ミヨ子様	大分県速見郡	10,000円
海野いつみ様	茨城県水戸市	10,000円
小川 勝様	東京都中野区	100,000円
綿引 久様	茨城県水戸市	30,000円
匿名		50,000円
加藤 武様	神奈川県横須賀市	10,000円
匿名		30,000円
細谷 友子様	茨城県ひたちなか市	20,000円
匿名		100,000円
匿名		100,000円
匿名		50,000円
秋本 邦彦様	山口県山口市	100,000円
匿名		1,000,000円

当財団をご支援下さる方

本年度もご支援をいただいた方のご芳名を掲載します。

(敬称略: 2004年7月30日~10月29日)

伊部 幸顕	木村 一雄	高山 守正	藤田 正俊
上島 弘嗣	楠岡 英雄	瀧下 修一	松田 暉
植松 治雄	小須賀健一	竹下 彰	松原 達昭
打田 俊司	小見山延子	田中 繁道	三田村秀雄
大内 尉義	佐藤 友英	原田久美子	宮崎 治浪
大川真一郎	下光 輝一	東 あかね	百瀬 満
岡崎 修	鈴木源次郎	福田 圭介	森下 竜一
岡田幾太郎	鈴木 典夫	福田孝太郎	渡辺 滋
片見 初江	高 柳 寛	藤田 敏郎	和田 龍幸

心臓財団からのお願い

~ご寄付ならびに賛助会ご加入~

当財団が循環器疾患の予防・制圧事業を展開するうえで、その多くは寄付金ならびに賛助会費により支えられております。あなたのまわりの方にもぜひ呼びかけてください。

ご寄付はいくらでも受けさせていただいております。当財団は「特定公益増進法人」として認可を受けておりますので、税制上の優遇措置が講じられております。

賛助会は日本心臓財団の目的に賛同し、その働きを支援する方々、法人によって構成されています。賛助会費は、個人の場合、年額1万円、法人の場合は5万円で何口でも差し支えありません。

ご支援いただける場合は、下記の口座をご利用ください。

郵便振替口座 00140-3-173597

宛て先 財団法人日本心臓財団



お近くにお越しの節はお立ち寄り下さい。